

地域経済の現状を市民とともに考える 北九州市民の会 第5回市民講座

北九州市民の会の連続講座が6月27日、ウエル戸畑で開催され200人超が参加しました。今回は地域経済をテーマに「激動の政治情勢と日本経済の再建」と題し日本共産党の大門実紀史(だいまもんみきし)参議院議員による講演。地元報告として福建労北九州支部の石迫書記長、日本共産党の大石市議、小倉民商の堀田常任理事からの報告がありました。

大門参議院議員の講演では衆議院選挙後の政治情勢として「タカ派の高市さんに維新が加わり、大軍拡へのダブルアクセルになっている。しかし、軍拡を進めながら、国民の願う平和や安心して住み続けられる国は両立しない。今、平和憲法を守れる運動が急速に広がっている。そういった方々と一緒に政治を動かしていきたい」と報告。



参議院議員の大門実紀史氏



多くの参加者で埋め尽くされた会場

「大軍拡を進めるためのお金は、暮らし向けの予算削減と社会保障の改善とさらなる大増税は避けられない」とアメリカ追従に大軍拡を進める高市政権を批判しました。日本経済の立て直しでは「中小業者を支援しながら賃金を引き上げる」「消費税の一律5%減税し、大企業・富裕層減税の見直し」「社会保障の拡充」をあげ、不公平税制を正せば、消費税に頼らない税制・社会保障財源が生み出せると説明されました。

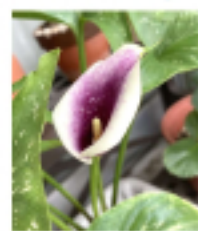
地元報告では福建労の石迫さんからは、もともと建築資材が高騰する中、ナフサショックで資材不足とさらなる資材高騰が起きていると報告。組合員の実態を集め経済産業省や自治体交渉を進めていると話されました。

小倉民商の堀田さんからは全商連のホルムズ海峡封鎖緊急アンケートの取り組みで全員10件を訪問・対話し、建設関係だけでなく、飲食業や小売業なども価格高騰の影響

日本共産党大石市議からは武内市政の現状が報告され、「稼げる街づくりとして大企業誘致などを行っているが、市内企業の99%は中小企業で従業員数の約8割が中小企業で働いており、抜本的に中小企業施策をあらためることが必要」とし、物価高騰対策では「非課税世帯と均等割世帯への1万円給付だけでは不十分。上下水道料金の軽減やごみ袋負担軽減、中学校給食無償化など他の自治体で取り組まれている施策を北九州でも実現させよう」と呼びかけました。

来春には北九州市長選挙が行われます。物価高騰・ナフサ不足への対策、高市政権の大軍拡にしっかりと意見の言える市長・北九州市を実現するため力を合わせましょう。

今週のお花



カラーの花言葉は「華麗なる美」「清浄」「乙女のしとやかさ」です。カトリックの修道女(尼)がつける襟の形に似ていることから「カラー」と呼ばれるようになったという説や、ギリシャ神話の女神ヘラの母乳がこぼれて咲いたという伝説も残されています。

7月	行事・会議など日程	支部・専門部など
13月		15日集金
14火		
15水		
16木	原水爆禁止国民平和行進 15:00～	
17金	会員訪問 18:00～	
18土	税研究集会 10:00～17:00 (オンライン)	
19日		
20月	海の日	
21火	記帳相談会 13:30～	
22水		
23木	財政新聞部/共済理事会 19:00～	
24金	3.13消費税宣伝 17:30～ 黒崎駅前	
25土		
26日		
27月	全商連事務局交流会 (事務所閉めます)	
28火		
29水		
30木		月末集金
31金	集団申告 11:00～	
8月	行事・会議など日程	支部・専門部など
1土	新年度バーベキュー 18:30～	
2日		
3月		
4火	原水禁世界大会 広島	
5水		
6木		
7金		
8土		
9日	倉敷民商福岡の会総会	

目配り・気配り・心配りで1,666人に合計87,861,000円の共済金給付

～ 福商連共済会 第48回 定期総会 ～

7月5日、福商連共済会第48回定期総会が春日クロアパズで開催され、八幡西民商から6人が参加しました。



春日クロアパズ 会場内

初めに、谷理事長から「昨年度は、県内で1,666人の方に合計87,861,000円の共済金を届けることができました。みなさんが、日頃から目配り気配り心配りを大切に活動していた成果だと思います。今は苦しい情勢の中ですが、助け合いの輪を広げて頑張りましょう。」とあいさつ。来賓あいさつでは、田口福商連会長から「自分が共済会理事長をしていた頃は、同じ民商の仲間なのに共済金を届けられないことが悔しいという思いで運動していた。そこから一層運動が進んでいると思う。これからも分け隔てない共済会を目指してほしい。」と話されました。



あいさつ 谷理事長

その後、総会方針案の提案、決算報告、予算案提案と議事が進み、午前の部は終了。

昼食後、5つの会場に分かれて分散会を行い、ある会場では「毎年作成している共済カレンダーは、それなりの費用を使っているが本当に必要なものなのか？必要な民商や会員がいるのはわかっている。注文制にするとか経費の節約等も検討する必要があるのではないか？」といった意見や「他の民商のバスハイクやディスコン大会の報告を見ると、参加者が子供も含めて楽しんでいる様子がわかる。自分のところでも検討したい。」「最近、会員外に向けて民商祭りを初めて開催した。すごく大変で不慣れな部分もあったが、400人程の人が来場してくれて大盛況だった。その後、民商に来所してくれる人もいた。宣伝として継続的にやっていけたらいつか成果につながるのではと思っている。」と話されていました。



第3分散会 活発に意見交換

分散会終了後、各分散会報告が行われ、全ての分散会で共通した意見もあったようでした。その後、質疑が行われ特に質問もなく各提出案に賛成多数で承認されました。続く表彰で、八幡西民商はA会員加入率95%という大きな目標を達成したことでも表彰を受け、野嶋共済会理事長が表彰状を受け取りました。

最後に、新役員よりあいさつがあり、竹下理事の閉会挨拶と元気な団結ガンパローで閉会となりました。

共済会担当 中国



八幡西民商から参加 左から露田さん・中村副理事長・野嶋理事長・露田さん・松本理事

原水爆禁止2026年世界大会

国民平和行進のご案内

日時：7時16日（木）

15:00 民商に集合

15:10 民商出発

16:40 黒崎駅到着

※車で民商集合の際は、民商駐車場をご利用ください。

（葬儀場や路上駐車はご遠慮ください）

※年々参加が少なくなっています。猛暑の中ですが、1人でも多くの参加、1歩でも2歩でも、みんなで行進しましょう。



原水爆禁止
国民平和行進
2026

～ 国民平和行進のはじまり ～

1958年6月20日、1人の青年（西本あつし氏）が被爆者や広島市長らに見送られ、被爆地広島市の平和公園から原水爆禁止世界大会が開催される東京に向けて歩き出しました。

それは、日本にアメリカの核ミサイルを配備し、憲法9条を改悪して戦争する国にする動きを止めるためでした。たった一人ではじまった行進は、のべ100万人が参加する大行進となり、危険な流れを止める大きな力になりました。

以来、68年間、原水爆禁止国民平和行進として、毎年全国から被爆地を目指し、平和の願いをつないで歩いています。